

[音楽] triforce

今回の作品は、生楽器と電子音の両方を取り入れて作りました。

今、テレビなどのメディアでは、コンピュータを基に生み出される電子音がとて多くなってきました。電子音は、正確にビートを打ち込んだり、その音を自由に加工出来たりと、様々な利点があります。

しかし、それはコンピュータを基にしているため、人の歌のような、繊細な揺らぎ、心地よさが失われやすいというデメリットも持ち合わせています。

今回の曲は、流れるような美しいメロディーだったので、そのメロディは生のギターで録音し、歌心、人間味を持たせ、そのバックのトラックは、電子音楽を中心に組み立てました。

また、この楽曲はマイナースケールと呼ばれる、悲しい響きを持つ音階で作られているのですが、楽曲のサビの部分で雰囲気明るくなります。これは、本当の光、本当の喜びは、苦しみや、闇を乗り越えた先にこそ、見えるものだと感じ、このようなアレンジになりました。

この曲を聴いて、苦しみや悲しみの先にある、光のようなものを感じていただけたら幸いです。

外国語学部
英語英文学科4年
田中 稜平